黒潮再生計画

町の中にあるものから地域の価値を見出す

Reconstruction Plan for Kuroshio-cho through the Local Specific

1. はじめに 地方都市において、地域性や風土性とは関連の薄い画一的な建物が数多く建てられていると思われる。しかし、店舗の軒が車道までせり出し、連続することで雁木のような役割が生まれた金沢の町家や、地域の特徴が異文化と混ざり合い発展した沖縄におけるRC 造建築など、現在でも地域性や風土性が建築として現れている場合も散見される。これらのことを踏まえ本研究では、文化や気候に根付いた習慣、風習などの人間関係に加え、地域ｺﾐｭﾆﾃｨｰに属さない旅行者などの外的要因による影響も考慮した、地域再生計画を提案する。

2. あるものから発想する

2-1. 弱点を強みに変える

高知県は北側を四国山地に阻まれ、南側は太平洋に面することから、周辺から比較的孤立した地域といわれることが多い。森林面積は全国一(84%)を誇るが、広大過ぎる森はこれまで活用のすべを見出せずにいた。しかし、近年天然資源である森を巨大なCO2吸収装置とし捉え、ﾌﾞﾗﾝﾄﾞ化していこうとするﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄが進行している(図1)。また、台風が直撃する厳しい気候条件は土佐漆喰の壁を守るための「水切り瓦」を、温暖多雨な気候は和紙の原材料を豊富に育み伝統工芸である「土佐和紙」を生んだ(図2)。さらに、こうした独特の風土や気候は「いごっそ」[1]「はちきん」[2]と呼ばれる気質の人柄を育んだといわれる。

このように、当地では閉鎖的で厳しい環境が深い森を育て、頑固者の気質を育んできた。このことは一般に弱点として捉えられがちだが、見方を変えればこれらを当地にしかない豊かさと捉え、建築や街づくりにおける強みに変えていくことも可能であると思われる。

2-2. 黒潮町における地域性

幡多郡黒潮町は、県西部に位置する農業と漁業の盛んな田舎町である。町の65歳以上の人口比率は33.7%と

高知県の森林面積率は84%、日本一。
その森林を「CO2を吸収する巨大なﾏｼﾝ」としてとらえ、ｸﾞﾘｰﾝ産業、ｸﾞﾘｰﾝ観光などの産業として発展させていくﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ

図1 .84ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ　出典:http://www.kochi-84project.jp/

「水切り瓦」
高知独特の強風多雨から土佐漆喰の壁を守るために壁面に瓦を設ける
出典：和装工房
http://waso.sblo.jp/article/28287323.html

「土佐和紙」
土佐で採れる豊富で質の良い原料をふんだんに使うため、優れた品質です。また、一軒一軒が異なる紙を漉いているため、品種が豊富である。
出典：情報処理推進機構
http://www2.edu.ipa.go.jp/gz/x-den1/x-iwa2/x-its/x-its3.jpg

図2 .独自の建築様式と伝統工芸品

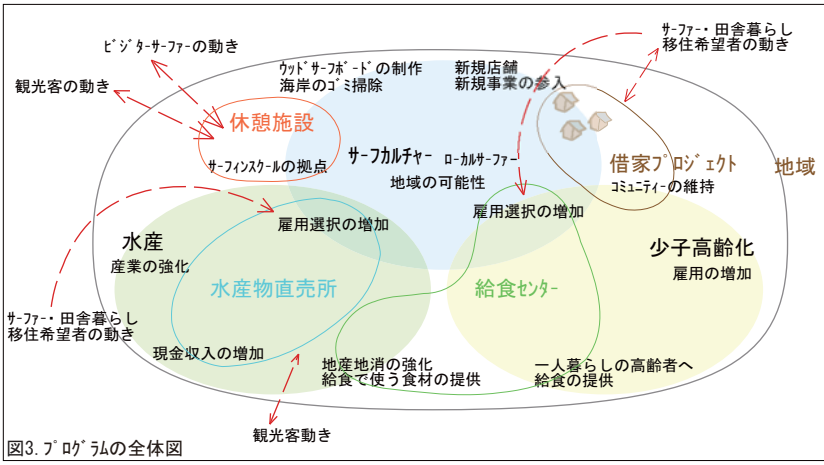


図3.ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの全体図

水産物直売所
漁港から水産物の提供をしてもらい、地産地消を推進すると同時に食育と漁師の現金収入の増加を目指す。

給食ｾﾝﾀｰ
地産地消を行い、周辺の小・中学校、単身の高齢者へ給食を提供する。定期的に高齢者へ配達することで健康状態の確認を行っている。

休憩施設
地域で生産する木材を用いて住人と観光客・ｻｰﾌｧｰ旅人が誰でも気軽に立ち寄り、海岸でおこるｱｸﾃｨﾋﾞﾃｨを包括する、また子供達を対象にｻｰﾌｨﾝｽｸｰﾙの拠点となる。

借家ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ
移住を希望する人を対象に空き家を賃貸する。
空き家を活用することで、まちにとっては防犯となり、移住を希望する人には地域ｺﾐｭﾆﾃｨとの関わり方や生活を体感できる機会を設ける。

全国平均に比べ高い。少子高齢化に伴う後継者不足は、町の基盤である農林水産業を衰退させる要因の一つとなっている。一方で、ﾕﾆｰｸな展示方法で知られる砂浜美術館の来訪者や、波を求めて訪れるｻｰﾌｧｰなど、数多くの観光客に恵まれており、特に近年ではｻｰﾌｨﾝをきっかけとした移住者も増加しつつある。こうしたｻｰﾌｧｰ等の外的要因の力や人口構成の変化は、今後の黒潮町の住み方を変えていくと思われる。

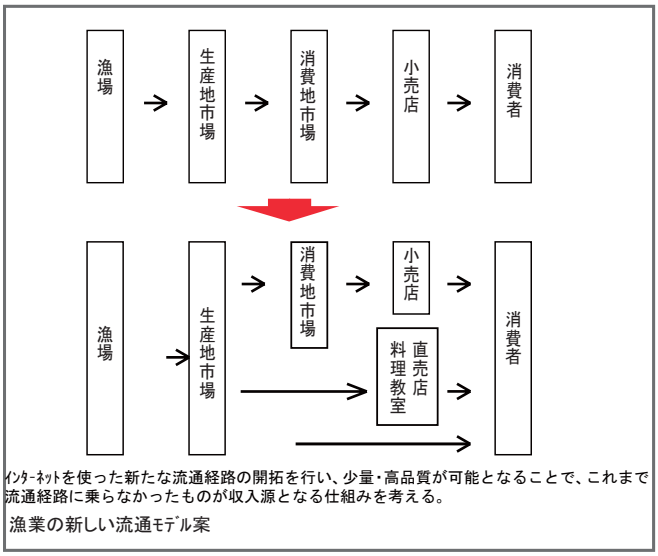
このように、黒潮町を魅力溢れる地方都市として再生するためには、通常見過ごしがちな町の中にあるものから地域の価値を見出すと共に、状況の変化に応じてまちの住み方と産業構造を再構築する必要がある。

3. 黒潮再生計画

3-1. ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの設定

2章で示したように、ｻｰﾌｶﾙﾁｬｰ、農・漁業、少子高齢化は相互に関係しつつ、今後この地域の性質を決定していくことが予想される。そこで、本計画では、黒潮町の再生計画を提案する。福祉ｻｰﾋﾞｽ、地産地消の向上を目的とした給食ｾﾝﾀｰと、高齢者がﾚｸﾘｴｰｼｮﾝや食事を取れる空間、また現在の魚介類の流通形態は魚屋から量販店に変わり、供給安定条件に合わないものは売れない状況にあり、このことによる現金収入の減少や、原油高に伴う維持費の増加が漁業離れを加速させている。産業を成り立たせる手段として、新たな流通経路の開拓や、地産地消の推進による現金収入を手に入れるための対策とした魚介類の直売所からなる複合施設を計画する。ｻｰﾌｶﾙﾁｬｰの拠点となる海岸沿いの敷地には、時間がゆっくり流れる感覚を体感できるような休憩所を計画する。さらに、地域ｺﾐｭﾆﾃｨｰの維持と移住者の積極的な受け入れを目的として、既存住宅の改修による借家ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄを展開する。これらを通して、新旧の地域文化に根差した町の再生計画を構想する(図3)。

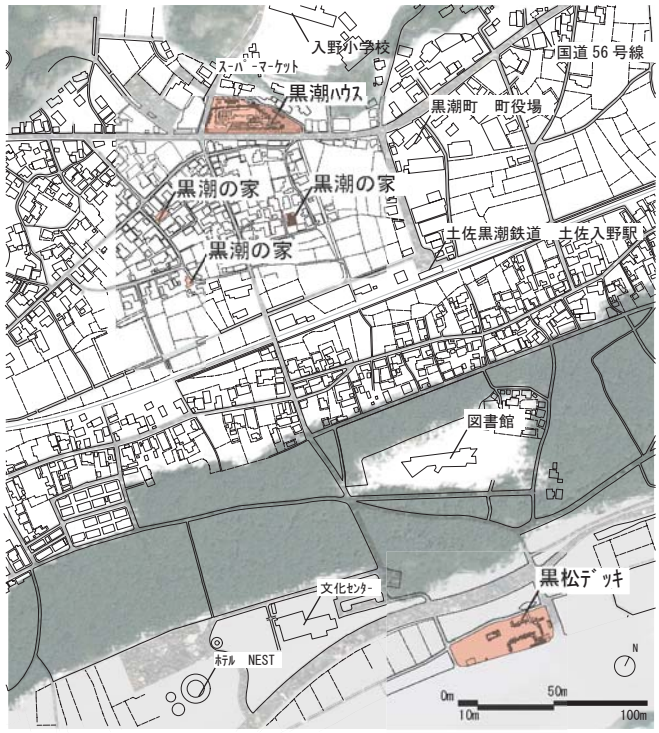
ここまでの考察を踏まえ、以下の3つのﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを具体的に設定する。町の生活の中心であるｽｰﾊﾟｰﾏｰｹｯﾄに隣接した地域の人が日常的に多く利用する場所に、給食ｾﾝﾀｰ及び水産物直売所を計画する。この場所は、主要道路である国道56号線と、小・中・高校の通学路に面しており、日常的に多くの人に利用される可能性がある。また、海岸を利用する人の為にﾄｲﾚ、簡易ｼｬﾜｰが完備されていることから、観光客やﾛｰｶﾙ/ﾋﾞｼﾞﾀｰｻｰﾌｧｰ、地元の人達が憩いの



ｲﾝﾀｰﾈｯﾄを使った新たな流通経路の開拓を行い、少量・高品質が可能となることで、これまで流通経路に乗らなかったものが収入源となる仕組みを考える。

漁業の新しい流通ﾓﾃﾞﾙ案

全体配置図



ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの年間ｲﾍﾞﾝﾄ計画

町の年間行事や、季節のｲﾍﾞﾝﾄ、習い事などと関連しながらｲﾍﾞﾝﾄを行う。春・夏に大々的に行われる町のｲﾍﾞﾝﾄに合わせて、大規模なｲﾍﾞﾝﾄを開催する。

場所と利用している敷地に休憩施設を提案する。ここは、地域住民と地域外の人たちが砂浜、ｻｰﾌｨﾝといった、共通する環境的要因によって繋がることが多い敷地であるといえる。

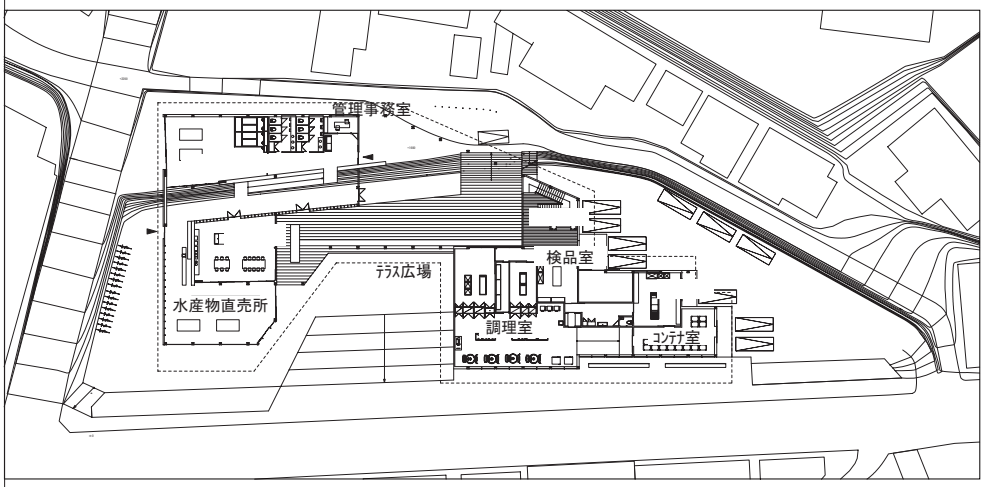
3-2. 黒潮再生計画

前章までの考察を踏まえ、黒潮町を対象として、建築を通した産業とまち、人とまちの再構築を試みる。

黒潮ﾊｳｽ　杉集積材による大架構の大屋根は、水産物直売所、給食ｾﾝﾀｰを繋ぎ軒下に包まれた空間は、南国の強烈な日差しを緩和させる。内部空間と外部空間の境界を曖昧にしおおらかな場所をつくり出している。大屋根の下では、毎朝朝市が開かれ町の中心が賑わいを取り戻す。また、建築の内部空間と外部空間を繋ぐ大きなﾃﾗｽは、何かと集まり酒を飲む機会の多い土地柄にふさわしい社交の場となる。

黒松ﾃﾞｯｷ　海岸沿いでは、ｻｰﾌｨﾝ、海水浴、散歩などのﾋｭｰﾏﾝｽｹｰﾙのｱｸﾃｨﾋﾞﾃｨｰが多い。このことから、ここで起きるｱｸﾃｨﾋﾞﾃｨｰを予め想定し、駐車場、松原、砂浜の大まかなｿﾞ

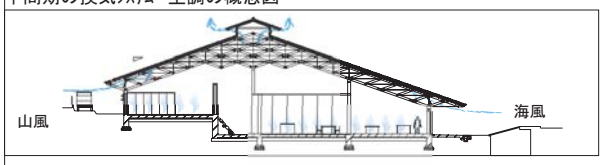
黒潮ﾊｳｽ



黒潮ﾊｳｽ　平面図　1/1000

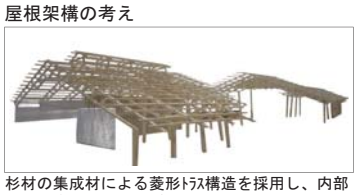
黒潮ﾊｳｽ　断面図　1/1000

中間期の換気ｼｽﾃﾑ・空調の概念図



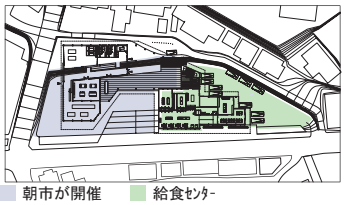
朝は南側からの海風を取り込み、夕方には北側からの山風を取り込む。

屋根架構の考え



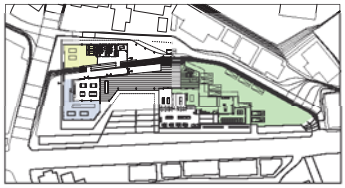
杉材の集成材による菱形ﾄﾗｽ構造を採用し、内部空間を広くとることができる。

建物の使用範囲の推移



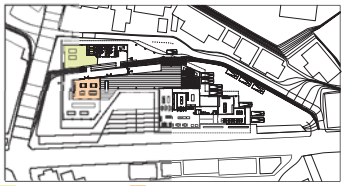
朝市が開催　給食ｾﾝﾀｰ

7 時～11 時頃
毎朝、朝市が開かれる。建物内部だけではなく広場、ﾃﾗｽにも広がり賑わう。給食ｾﾝﾀｰは、町内の小・中学校へ配達する給食づくりにﾌﾙ稼働。



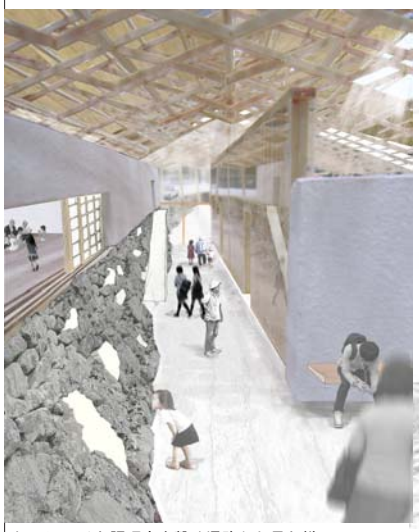
水産物直売所　給食ｾﾝﾀｰ　ｶﾙﾁｬｰｽｸｰﾙ

12 時～3 時頃
朝市は午前中までに終わり、室内のみの販売に切り替わる。給食ｾﾝﾀｰは、各学校に配達を終えｺﾝﾃﾅ室、洗浄室を使用している。ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝﾙｰﾑでは、午後からｶﾙﾁｬｰｽｸｰﾙが開かれ定年退職した方達も講師として招き様々な授業が行われる。



ｶﾙﾁｬｰｽｸｰﾙ　料理教室

4 時～8 時頃
下校時の児童の遊び場となり、夜には家事が一段落した奥様方がお稽古に訪れる。



ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝﾙｰﾑと調理室を繋ぐ通路から見た様子
石垣が所々抜き取られ照明となっていおり、通路を行き交う人を照らす。

水産物直売所の様子
ｶﾞﾗｽ瓦からの光によって明るい室内は、朝市の時には直売所、調理場、ﾃﾗｽ広場を一体的に利用できる

ｰﾆﾝｸﾞと結びつけることで、時間がゆっくり流れる感覚を体感できるような心地の良い休憩所を計画する。

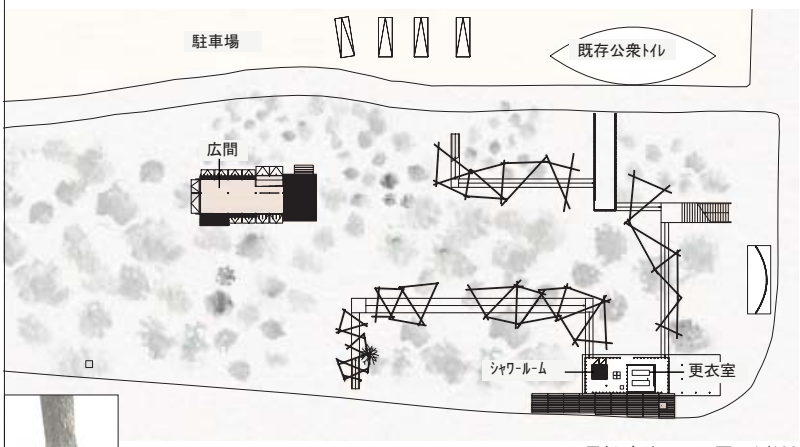
借家ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ 黒潮の家　空家となった住宅を、ｻｰﾌｨﾝ中心のﾗｲﾌｽﾀｲﾙに合わせ、駐車場から直接浴室に行けるようする。また、ﾊﾟｰｺﾞﾗを設け半外部空間を大きくつくることで、高知の気候に対応した豊かな空間となる。

4. まとめ

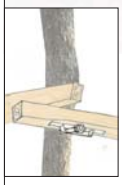
本計画では、通常見過ごしがちな町の中にあるものから地域の価値を見出すと共に、これから変化していくまちの住み方と産業構造の再構築を試みた。このことにより、地域性を顕在化、活性化した都市再生計画となる。

註　1). いごっそ　：快男児・酒豪・頑固で気骨の在る男等を意味する土佐弁
　　2). はちきん　：気が強い, 男勝りの女性を意味する土佐弁

黒松ﾃﾞｯｷ



黒松ﾃﾞｯｷ　平面図　1/1000



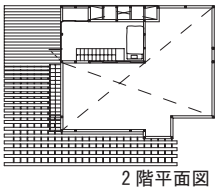
ﾂﾘｰﾊｳｽ作りの工法を用いたｽﾛｰﾌﾟの土台
木の中心部に向け､ﾎﾞﾙﾄを食い込ませて固定し土台と木を結ぶ。木は、中心部より周辺に傷がつく方がﾀﾞﾒｰｼが大きいため、従来のｻﾝﾄﾞｳｨｯﾁ工法より木にやさしい。

黒松ﾃﾞｯｷ　断面図　1/1000

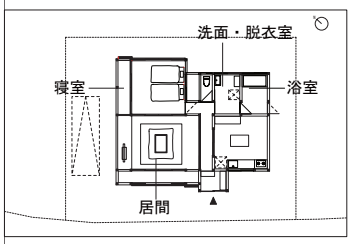
休憩小屋をみる
壁の大部分に建具を取り付け、風通しを最大限優先させ開放的な空間とした。半外部のﾃﾞｯｷでは、農家の人や､ｻｰﾌｧｰの昼寝場所となり、夜にはどこからともなく集まり宴会が始まる。

駐車場側からｼｬﾜｰ室がある小屋を見る
松原中を歩行者は、緩いｽﾛｰﾌﾟを蛇行しながら回遊することができる。いつもとは見える景色が少しだけ違うだけで、小さな発見と喜びを感じることができる。

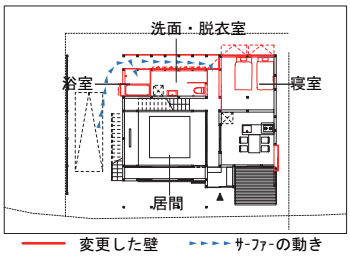
黒潮の家



2 階平面図　1/500



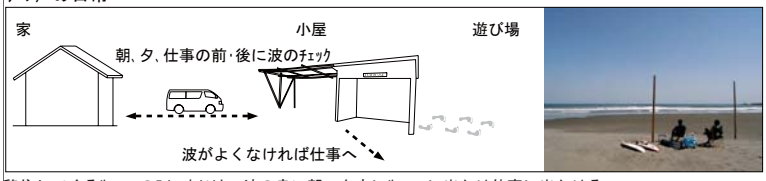
改修前　平面図　1/500



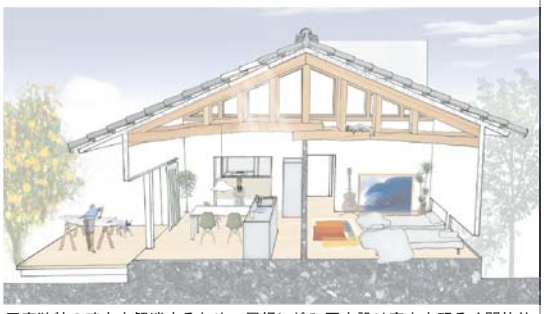
改修後　平面図　1/500

駐車場上に設けたﾃﾗｽは、高知県の強烈な日差しを緩和するように、南側に板の間隔を広げながら延びる。ﾃﾗｽに、落葉するの蔓植物を這わせ、夏は日差しを遮り、冬は日差しを取り入れる。海を遊び場と共に暮らすｻｰﾌｧｰのﾗｲﾌｽﾀｲﾙを半外部空間が繋ぐ役割を果たしている。

ｻｰﾌｧｰの日常



移住してくるｻｰﾌｧｰのﾗｲﾌｽﾀｲﾙは、波の良い朝、夕方にｻｰﾌｨﾝに出かけ仕事に出かける。



平家独特の暗さを解消するため、屋根にｶﾞﾗｽ瓦を設け室内を明るく開放的にしている。